

# クラシックと邦楽、語りを交えた オリジナルコンサート & 公開講座

## 悠久の時空を越えて

源氏物語千年紀を経て



第43回  
宇短大祭  
メインステージ

2009 11/14(土) 14:00 開演

宇都宮短期大学 須賀友正記念ホール

主催 文化庁・宇都宮短期大学 (文化庁「地域文化芸術振興プラン推進事業」)  
後援 栃木県・栃木県教育委員会・宇都宮市教育委員会・栃木県楽友協会

宇都宮短期大学音楽科・人間福祉学科

宇都宮市下荒針町長坂 3829 TEL 028-648-2331



### 『源氏物語』第二十三帖「初音」巻から

#### 本文

年たちかへる朝(あした)の空のけしき、なごりなく曇らぬうららけさには、数ならぬ垣根(かきね)の内だに、雪間(ゆきま)の草若やかに色づきはじめ、いつしかとけしきだつ霞(かすみ)に木の芽もうちけぶり、おのづから人の心ものびらかにぞ見ゆるぞかし。

ましていと玉を敷ける御前(おまへ)は、庭よりはじめ見どころ多く、磨きましまへる御方々のありさま、まねびたてむも言の葉足るまじくなむ。

(『新編 日本古典文学全集 源氏物語』第三巻 小学館 から)

#### 現代語訳

新しい年を迎えた元日の空は、雲ひとつなくうららかに晴れ渡っています。ありふれたささやかな家の垣根の内さへ、雪の間から若草が爽やかな緑をのぞかせはじめ、早くも春めいてたなびく霞に、木の芽も萌えだしほんのりと煙り、人の心まで自然にのびのびするように思われます。

まして玉を敷きのべたように輝かしい六条の院では、お庭をはじめどちらを向いても目を奪われるお見事さです。常にもましてひととき美しく磨き立てていらつしやる、女君たちの御殿の様子は言い表しようもないほどです。

(瀬戸内寂聴・訳『源氏物語』巻四 講談社 から)

#### 解説

『源氏物語』第二十三帖の「初音」巻

では、源氏の新邸宅である壮麗な六条院に、初めて春がめぐってきたおめでたい寿福の景が描かれる。「春夏秋冬」

の四つの町に、それぞれの風趣に合わせた女君たちを住ませた六条院は、主人公「光源氏」の人生のクライマックスを体現するもの。巻名「初音」は、

「冬の町」の明石の君が、娘の明石の姫君に贈った「年月をまつにひかれて経(ふ)る人に

けふ鶯(うぐひす)の初音きかせよ」という歌による。



#### もみじ

秋の夕日に照る山もみじ  
濃いも薄いも数ある中に  
松をいろどる楓(かえで)  
や鶯(つた)は  
山のもとの裾模様(すそもよう)

溪(たに)の流に散り浮くもみじ  
波にゆられてはなれて寄って  
赤や黄色の色さまざまに  
水の上にも織る錦(にしき)

### プログラムと曲目解説

#### I

1. ピアノ 独奏 「千鳥の曲」 吉沢棧校 作曲

篠木 純夫 幕末に名古屋・京都で活躍した盲人音楽家 吉沢棧校の作品で、「六段の調」「春の海」と並んで、華の名曲として広く知られています。

2. 解説 「源氏物語と音楽」

須賀 房江 安藤 政輝先生との対談による解説です。

3. 朗読と箏 「源氏物語第23帖 初音より」  
朗読部 / 瀬戸内寂聴 現代語訳 音楽 / 宮城道雄 作曲

福嶋真理子 朗読部の解説はプログラム裏表紙、音楽は、昭和27~28年に文化放送より放送された「朗読と音楽による源氏物語」(朗読:山本安英、音楽:宮城道雄)の「初音」を基に構成致しました。

4. 邦楽の世界 「夕顔」 菊岡棧校 作曲 八重崎棧校 箏手付

安藤 政輝 三味線と箏の二重奏曲で源氏物語の「夕顔」に因んだ曲です。

安藤 珠希 「さらし風手事」 宮城道雄 作曲

宇治川の布さらしの様子を詠った曲をもとに作曲されたもので箏高音と箏低音の華やかな二重奏曲。「手事」とは、歌と歌の間にある器楽的な部分を指します。

#### II

5. 児童合唱と箏と胡弓 ①「竹の子」 ②「狸の泥舟」 ③「柿の種と握り飯」  
萬原しげる 作詞 宮城道雄 作曲

鹿沼児童合唱団 「ボコ・ア・ボコ」 山本 治子 安藤 政輝・珠希 宮城道雄は子どものための曲(童曲)を数多く作曲しています。<竹の子>は竹が昼も夜も力強く空に向かって伸びる様子を、<狸の泥舟>は「かちかち山」の話を、<柿の種と握り飯>は「猿蟹合戦」の話を歌っています。

6. フルートと箏 「うぐいす」 宮城道雄 作曲

崎谷 直 箏と尺八の二重奏による標題音楽で、全体的にケキョケキョという鶯の鳴き声を模した描写的な旋律が多く使われています。

崎谷美知恵 「小鳥の歌」 宮城道雄 作曲

安藤 珠希 小鳥のさえずりと動きを描いた標題音楽で舞曲風の軽快な曲です。原曲は箏と尺八2部の三重奏ですが、本日は尺八の部分を2本のフルートで演奏します。

7. テノールと箏 「平城山」 北見志保子 作詞 平井康三郎 作曲

川久保博史 「人を恋することは悲しいもの…」 鶴之媛皇后を偲んで詠んだ歌です。

安藤 政輝 「カタリカタリ」 R.コルディフェッロ作詞 S.カルディッロ作曲 山田香 童曲

珠希 自分のもとを去ろうとする恋人を引き止めようとし情熱的に訴える、古いカンツォーネです。

8. フルート・テノール・箏 「うわさ」 西条八十 作詞 宮城道雄 作曲

崎谷 直 「世間の人々は些細なことで噂をしたがるものだから、人の噂など気にすることは無い」という飄々然とした雰囲気の中に作曲された歌曲です。

川久保博史 「雲のあなたに」 玉置光三 作詞 宮城道雄 作曲

安藤 政輝 唐山で有名な阿波の国へ海路入る様子をうたった、民謡風のゆったりとした歌曲です。

フィナーレ 合唱 & 合奏 「もみじ」 高野辰之作詞 岡野貞一 作曲

～会場の皆さまと出演者全員で～